

さいたま市立大谷場中学校 各教科の内容と評価観点 [国 語]

教科の目標	○基礎的な学習を活かして、表現力を身に付ける ・語彙力を高め、話し方の基本を身に付けることができる（１年） ・組み立てを意識した文章を書いたり、わかりやすく発表したりすることができる（２年） ・自分の考えを人にわかりやすく伝えたり、述べたり、書いたりすることができる（３年）
-------	--

	項目 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
１ 年	評価の重点	社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができる。	言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

	単元・教材・題材 等	学習目標・学習内容・学習活動 等	評価の方法
１ 学 期	～国語学習オリエンテーション～ ・詩「ふしぎ」 ・随筆「聞くということ」 ・話す「お気に入りの一品を紹介しよう」 「日本語の音声」 ・小説、物語「桜蝶」 ・「本のポップを作ろう」 - 読書…小説「ベンチ」 ・「硬筆展に向けて練習しよう」 ・文法「言葉の単位を知ろう」 「文節の働きを知ろう」 ・説明文「自分の脳を知っていますか」	・中学校の国語学習の目標、進め方について確認する。 ・詩の基本知識の確認、詩に込められた作者の心情理解をする。 ・言葉を通して自分と相手を理解する。 ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の選択、言葉遣いについての知識を生かして話す。 ・文学作品の構成や展開、人物の関係を描写から捉える。 ・「ベンチ」の表す状況を捉えて、本の紹介メモを作る。 ・思考の流れや登場人物の心情の変化に沿って展開を把握する。 ・手本を見ながら丁寧に視写する。 ・言葉が様々なまとまりに分かれることを理解する。 ・様々な文例をもとに、単語に分けたり、表にまとめたりする。 ・主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係について理解する。 ・音読、辞書の活用、説明文の理解の仕方の基本を確認する。 ・文章の種類による叙述の特徴や構成や展開、表現の特徴を分析的にとらえ、その工夫や効果について自分の考えをもつ。	年間を通して ・ワークシートの内容 ・提出物の状況 ・小テスト ・音読テスト ・定期テスト ・グループ学習の状況 ・発表・プレゼンテーション等の内容 ・書写作品 ・漢字学習への取り組み ・作文の内容 ・宿題への取り組み など

2 学 期	・総合 (SDG s)「持続可能な未来を創るために」一人の暮らし方を考えるー ・古典「竹取物語」、「中国の名言」 ・話す「内容を整理して説明する」 ・説明文「森には魔法つかいがいる」 ・文法「文節の働きを知ろう」 ・「〇〇の案内文を書こう」 ・文法「単語を性質や働きによって分けてみよう・品詞分類」 ・物語「オツベルと象」 ・説明文「子どもの権利」 ・「書き初め展に向けて練習しよう」 ・熟語の構成	・古文と現代文の対応に注意しながら、歴史的仮名遣いや古語について理解する。 ・返り点、送り仮名など漢文の訓読に必要な基礎的な事項について理解する。 ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、語句の選択、言葉遣いについての知識を生かして話す。 ・大まかに内容をつかんだり、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする。 ・自分の書いた文章を見直すことによって、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討する。 ・字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して練習する。 ・熟語の構成の基本的な型を知る。	
3 学 期	・「意見文を書こう」 ・詩「河童と蛙」 ・説明文「言葉がつなぐ世界遺産」 ・文法「活用のある自立語」 ・小説「少年の日の思い出」 ・詩「四季の詩」 ・小説「蜘蛛の糸」	・日常生活の中から課題を決め、自分の主張を明確にするための具体例を収集する。 ・詩を音読し、詩の内容や表現について、小グループで話し合う。 ・文章の中で必要だと思った部分に印を付したり、必要な部分を抜き書きしたりしながら目的に応じて必要な情報を読み取る。 ・「活用のある自立語」について理解する。 ・語り手の言葉、登場人物の言動、情景の描き方など様々な形で表れている、書き手のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。 ・表現の効果について、根拠を明確にして考える。 ・人物の相関図を作成する。	